



3地区で恒例の夏祭り盛大に



大胡・宮城・粕川の各地区で、盛大な夏祭りが行われました。7月28日と29日は大胡祇園まつり。伝統の暴れ獅子が勇壮に町中を駆け回りました。8月5日は宮城地区納涼祭と粕川まつり。宮城地区では特設ステージで活気あふれる歌や踊りなどが披露され、粕川地区では山車やみこしが練り歩きました。それぞれの会場は、夏の暑さに負けず熱気に包まれていました。



高崎まつりで相互交流

高崎まつりが8月4日・5日、高崎市を中心市街地で開催されました。市民同士の交流を深めるため、本市から華龍太鼓が出演。勇ましい太鼓の音が響き渡り、真夏の祭りを大いに盛り上げました。



7月26日、毎年恒例の「夏休み親子と子の工場見学」が新進利根川工場と日新電機前橋製作所で行われました。親子40人が参加し、普段見ることができない工場に興味津々。食品や電力機がどのようにできるのかを真剣に見学していました。

親子で見学し工業に関心を



第13回日本はがき芸術作家展で、5,203点の応募作品の中から大賞に選ばれた。この作品は、安中市の妙義山麓美術館に9月3日まで展示されている。

「この作家展には、第5回から毎回出品しています。絵の教室などに通わず、自己流で描いているんですよ。勉強のため、よい絵を見ようと美術館巡りによく行きます」

気ままに、自由に描けるのがハガキ絵の特徴で、そこが好きだという。「今回の作品は、13年間一緒に過ごした愛犬『リリー』を描いたものです。3枚組で構成しました。散歩で、近くの公園へ出掛けて遊んだことなど、たくさん思い出が

心に残っていて、ハガキ絵に表現したいと思っただけです」

家族同然だったが3年前に病気で他界したという。一緒に過ごした日々を語る口振りからも、愛情の深さがうかがえる。

「大賞と聞き、まさかと思いましたが。先日ホテルで表彰式があり緊張しましたが、美術館に自分の絵が飾られているかと思うと、何となくうれしいものです」

ミシンを使って小物や洋服を作るのも趣味の一つ。最近では、孫の洋服を作るのが特に楽しみだ。

「テレビに出ている物と同じ洋服を作ってあげると、喜んでくれるんです。その笑顔がとてもかわいくて、隣に座る孫を見つめながら話す顔には笑みが絶えない。」



日本はがき芸術作家展で大賞
狩野 千世乃さん・70歳
高井町一丁目

若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

✦入選 はじめて犬をかったこと

勝山小2年
内野 那実さん

わたしは、犬をかった。かわいかった。犬の名前は、ラッキーにした。大きくなって、バイクにのせた。かっこよかった。ようすを見たら、しんけんだった。足と手がのびていた。目は、「これはなんだ。」っていうかんじだった。

りました。そして おてがみがかけるようになりまし。ひろむらさんにあげたいとおもいました。

✦入選 人間のよう顔がある木

天神小3年
田中 翔大さん

学校から帰るとちゅうに木がある。木の顔は、毎日かわる。たまあに、すごくこわい顔になっている。

✦入選 ひらがな

荒牧小1年
横山 愛莉さん

ひらがなが、じょうずにかけるようになりまし。た。おてほんをよくみて、かたつむりのせんでゆっくりかい。たら、じょうずにかけるようになりまし。た。できたら、うれしくて、まるをいっぱいもらえるようにな

目がおもしろい。鼻もない。木も、ぼくのこと、こわいと思っているとよい。自分かもし木だったら、みんなをこわい目でびっくりさせ。わらわらない木があったら、ぼくはその木をわらわせた。